



asano-masatomi-kouen-kai-dayori

あさの正富 後援会だより

第3号

No.03
2022.12.25 発行

あさの正富後援会事務所

〒323-0034 栃木県小山市神鳥谷 1-6-19
TEL.0285-25-6577 FAX.0285-25-6627

市長就任3年目を迎えて

浅野正富

ウィズコロナの段階に

早いもので一昨年7月末の市長就任から2年が経過し3年目に入りました。この間新型コロナウイルス感染症の流行が波状的に続き、ついに第8波に至っています。しかしながら、新規感染者数増加による社会経済活動の制限はほとんどなくなり、新型コロナウイルスもいよいよウィズコロナの段階に入ったと言えるでしょう。

第7波に入ったころは開催できるかと心配されていた今秋のいちご一会とちぎ国体・とちぎ大会もコロナ禍において観客を入れて開催できたことは、数年間にわたり準備を重ねてきた関係者にとっては感無量なことだったと思います。小山市は国体開催期間前の9月に水球と新体操の2競技、10月の国体開催期間中に空手道、軟式野球、重量挙げと3競技の競技会を行い、障害者スポーツ大会では車椅子バスケットの競技会を行いました。運営を担当した市職員から一人も感染



者を出さずにこれらの競技会を無事開催でき、皇室関係者も大過なくお迎えできたことに地元開催責任者として本当に安堵しました。

国体、障害者スポーツ大会が開催された前後からほかの行事についてもコロナ禍の前のように開催できるものが増えました。

全国都市問題会議への参加



10月13、14日には、長崎市で全国市長会主催により3年ぶりに開催された全国都市問題会議に参加しました。約1,900名もの参加者が集う大規模な会議に参加するのはコロナ禍に入ってから初めてのことでしたので、私たちの社会の新型コロナウイルスとの付き合い方のフェーズがはっきりと変わったことを実感しました。「個性を活かした『選ばれる』まちづくり～何度も訪れたい場所になるために～」というテーマでの会議でしたが、講師の方の「自治体に移住定住者を増やそうとしても限られたパイの奪い合いになる」という問題があり、むしろ何度でも訪ねて来てくれる、あるいは訪ねて来てくれなくても様々な形で関係を持ち続けてくれる関係人口を増やすことがその地域の活性化につながる」という主張には共感しました。また、「関係人口を増やそうとしたときに、自治体の中で人と人が十分繋がっていないければ、自治体の外の人と繋がることは難しい」という指摘も正に正鵠を得ていると思いました。

市長就任3年目を迎えて

私は、茂木町の棚田オーナー制に10年以上通っていますが、いつしか自分の田舎に帰るような感じで茂木に通うようになりましたし、地元の方たちの自分たちのふるさとを守っていききたいという強い人的繋がりが大きな魅力になっています。

翻って小山市の場合を考えると、自分が住んでいる周辺はともかくとして、元1町9村の広大な小山市を隈なく知っている人は決して多くはないでしょうし、「小山市では南端北端の住民同士、東端西端の住民同士が深くつながっています」とまでは自信を持って言えません。

昨年度後半から小山市では田園環境都市ビジョンづくりを進めていますが、風土性調査を順次市内11地区で行い、その成果を当該地区だけでなく他の地区の方たちとも共有し、市民が様々な形で議論することにより30年後の各地区、そして市全体の目指す姿をビジョンとして描いていきます。その策定作業の中で各地区内、そして地区を越えての人と人の繋がりをしっかり繋ぎ直して行くことができますので、田園環境都市ビジョンづくりが小山市の関係人口を増やしていくための基礎になってくれるものと思います。田園環境都市ビジョンづくりについては、最新情報を提供するためにホームページも立ち上げましたので、是非「小山アサツテ広場」と入力して検索し、閲覧していただければ幸いです。

市政懇談会と市民フォーラムの開催

自治会連合会の小山支部、間々田支部、美田支部、大谷支部、桑支部、絹支部の全6支部すべての地区で市政懇談会か地域版市民フォーラムのいずれかを行うことが今年度初めてできました。昨年度まではコロナ禍の状況により中止になってしまう支部がありましたので、就任3年目にしようやく全支部の自治会役員とお会いすることができました。市政懇談会か、地域版市民フォーラムか、形式に関わりなく、自治会役員として市政に対して痛切に感じている貴重なご意見を直に聴くことができ大変参考になるとともに、小山市を良くしたいという真摯な思いを受けて、私自身、身が引き締まる思いがしました。

市内全域を対象にしたテーマ版市民フォーラムも7月には「いなかとまちなかの連携」、11月には「おやまMIRAI若者会議」のテーマで開催しました。「いなかとまちなかの連携」では小山市の市街地と周辺地区の意識や環境の差を改めて確認するとともに、いなかの持つ魅力をもっとまちなかの人たちに知ってもらい、まちなかの人々が過疎化や少子高齢化の問題で深刻な状況になっているいなかをもっと支えて行こうという議論に発展しました。「小山MIRAI若者会議」では、若者たちが行政に対して色々と要望したり相談したいことがあるのに、行政は今までその受け皿をしっかりと用意してこなか

ったということを再認識させられました。来年4月から直営化することになった生涯学習センターが若者と行政の接点になるような運営を目指すことを参加者の若者たちに約束しました。

ラムサールCOP14サイドイベント参加



11月7日から11日まで、環境省の依頼を受け、ラムサール条約COP14の環境省等が主催する「持続可能な湿地生態系としての水田と人々のための行動」と題したサイドイベントで渡良瀬遊水地の条約湿地登録10年間の取組を報告するため、スイスのジュネーブに出張しました。

条約湿地登録後の渡良瀬遊水地の賢明な利用として、コウノトリやトキを指標生物に湿地生態系の環境の向上を目指して掘削による湿地再生や周辺水田での環境にやさしい農業としてふゆみずたんぼやなつみずたんぼを進めてきた結果コウノトリの3年連続の繁殖を実現し、今後はコウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラムの27加盟自治体のうちトキとの共生を目指す里地に指定された18自治体の一員として遊水地でのトキの定着を目指して行くことを、約10分間という短い時間でしたが英語で報告しました。



着物での結城市、栃木市との交流

帰国した翌日の11月12日には、総合公園で、サイクルフェスタ、農業祭、バルーンフェスタが開催されましたので、午前中に各会場を順次回りました。10月23日に小山駅西口から御殿広場までを会場に行われた西口まつりと同様にすごい人出で、3年ぶりになりますが確実にまちの活気が戻ってきました。その日の午後には結城紬に着替えて、結城市で行われていたきものday結城の抽選会を訪問し、結城市小林栄市長と一緒にくじを引きました。

結城紬は12年前の11月にユネスコ無形文化遺産に登録されたので、毎年11月には結城市で「きものday結城」、その1週間後に小山市で「小山きもの日」を開催しています。今年も12日の1週間後となる19日に市役所1階多目的スペースで開催した「小山きもの日」開会式に結城市の小林市長をお迎えしました。今年はさらに栃木市の大川秀子市長もお迎えして、結城市長、栃木市長、小山市長の3名和装のそろい踏みとなりました。一昨年から「小江戸とちぎきもの日」に小山市長がお招きを受け参加させていただきましたので、今年は栃木市長にも「小山きもの日」に参加いただいたのです。

和装の3市長が揃うことで結城紬やきもの普及に少しでも貢献できれば幸いです。そして、翌20日は「小江戸とち



ぎきもの日」でしたので、私が結城紬で会場のとちぎ山車会館を訪ね返礼させていただきました。

以上、ウィズコロナの段階となって社会経済活動が正常化し出し、光明が見え始めた最近の様子を報告させていただきました。しかしながら依然としてコロナの感染は収まらず、今年2月からのロシアによるウクライナ侵攻は続き、その影響を受けたエネルギー、食料品価格の高騰が私たちの生活を脅かしています。

そのような中、市長3年目と4年間の任期の折り返し点を過ぎましたが、2023年が今年よりも少しでも明るい年にできるよう、市民の皆様のために力を尽くして行きたいと思っております。

後援会の2年間で振り返って

最初に後援会の総会が浅野市長就任以来2年以上も過ぎたにもかかわらず、コロナ蔓延などいろいろな事情で未だ開催されなかったことに対し深く申し訳なく会員の皆さまに、謝らなければなりません。しかし、この間もお陰様で浅野市長は順調に市政を執行し公約を着実に推進されていることに感謝したいと思います。

浅野市長の公約の中に「市民が求める政策の実現」と「徹底した市民との対話と連携」があります。市長就任後これまでの2年間は、市民生活に緊急を要する学校の雨漏りや道路の補修などと共にコロナ騒動の制約の下でも市民との対話を通じて、その政策実現を図るため市民フォーラムの開催をはじめとする様々な市民との対話機会を通じて市民の意見に耳を傾けてきました。そして市政の取組みにおいても丁寧な説明と運営を行ってきました。こうした浅野市長の政策に係わる基本スタンスは、あくまで市民による市民のための市政を実現することです。

このような浅野市長の考えに共感した市民達が自然発生的に誕生した組織も「あさの正富後援会」の発足当初から参

あさの正富後援会会長 楠 通昭

加していますが、その後も増え続けています。例えば「田園環境都市小山」への大きな共感から「市民が創る田園都市小山の会」と「小山っ子の未来を守る会」そして小山市の風土調査を手掛ける風景社との連携を通じての環境、有機農業、子育て、文化・芸術など多方面で活躍する市民達です。このような市民の自発的参加の流れは、ひとえに浅野市長が掲げる将来の小山市の姿を見据えた市民の動きとなって現われています。

一方、浅野市長を支える資金バックボーンは多くの政治家のように特定の団体・企業に依存することなく、純粋に浅野イズムに共感した市民1人1人の支援を中心とした後援会です。持続可能なより良い小山市にするため1人でも多くの市民の方々の仲間を増やしたいと思います。

今後は後援会の総会準備と合わせて実質的な後援会活動、例えば市長の地区別意見交換会や諸団体などとの集会などを開催し、さらなる市民との対話を通じて市民が求める政策を進めていける体制を整えたいと思いますので、会員皆様のご支援をお願いします。

「渡良瀬遊水地ラムサール条約登録 10周年記念シンポジウム」が開催されました

特定非営利活動法人わたらせ未来基金 理事長 青木章彦

渡良瀬遊水地は、2012年7月3日に、ラムサール条約(特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約)に登録されましたが、ちょうど10年目にあたる、2022年7月3日に、小山市文化センターにおいて、「渡良瀬遊水地ラムサール条約登録10周年記念シンポジウム」(主催:渡良瀬遊水地保全・利活用協議会(会長:浅野正富小山市長)が開催されました。渡良瀬遊水地に関わる、国や自治体関係者、自然保護団体のメンバー、市民が約250人集まりました。5時間に及ぶ長丁場でしたが、参加者の皆さまは熱心に聞き入っていました。

全体が二部構成で、第1部が、「記念式典・活動報告・パネルディスカッション(主催:渡良瀬遊水地保全・利活用協議会)」、第2部が、「田っぶり学ぶ!わたらせコウノトリスクール2022(主催:小山市)」でした。

第1部では、「ラムサール条約登録10年後の歩み、そして未来へ」と題した活動報告(青木)の後に、「ラムサール条約湿地におけるエコツーリズム」をテーマとしたパネルディスカッションがあり、栃木県におけるもう一つの登録湿地である、

奥日光の湿原を有する日光市の粉川市長も参加して熱心に議論しました。各首長さんが、取り組みを熱っぽく語ったため、とても時間が足りませんでした。第1部の最後には、浅野市長から、知る、集まる、繋がるをテーマとする「渡良瀬遊水地宣言」が発表されました。

第2部では、渡良瀬遊水地に何度も足を運んで、コウノトリの野生復帰を訴えた、故・柳生博さんへの感謝状贈呈、渡良瀬遊水地見守り隊への感謝状贈呈に続いて、下生井小学校(小山市)、藤岡小学校(栃木市)、野木小学校(野木町)の小生たちが、授業形式で、コウノトリについて学びました。また、「コウノトリへの想い」と題して、小学生が渡良瀬遊水地について学習してきた成果を発表しました。

このシンポジウムは、登録10年の歩みをしっかり振り返ることができました。そして、「未来へ」希望が持てるシンポジウムになりました。

10年後には、コウノトリとともに、「トキ」も渡良瀬遊水地を舞っている「未来へ」向けて、共に歩いていきましょう。



開会にあたり挨拶をする浅野正富市長



コウノトリ・トキの話題

ラムサール湿地ネットわたらせ 門馬悠一



命名式で除幕する浅野正富市長他関係者

渡良瀬遊水地第2調節池の人口巣塔では、今年もコウノトリの雛2羽が誕生しました。5月28日に生井桜つつみに於いて行われた雛の命名式には、国交省、農水省、環境省からの関係者、渡良瀬遊水地周辺自治体4市2町の首長及びその代理など多くの来賓や報道関係者が集まり盛大に挙行されました。挨拶で浅野正富市長は、渡良瀬遊水地がラムサール登録湿地10周年の節目の年に3年連続で三回目の雛の命名式が開催できることは、遊水地に関わる地域住民や関連機関・団体の協力の賜物と謝意を表したうえで、次の20年、30年を見据えた渡良瀬遊水地の環境保全と懸命な利用を一層進めたいと抱負を述べられました。

一方、環境省が2026年以降トキの放鳥を本州でも始めるとの方針を発表したことを受けて、浅野正富市長が代表理事を務めるコウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラムは、国の特別天然記念物のトキの野生復帰を目指す「トキと共生する里地づくり取り組み地域」に賛同する小山市、栃木市、野木町、結城市などをはじめとする18市町の連名で応募した結果、8月に環境省からの指定を受けることになりました。

更に、この「トキと共生する里地づくり」を見据え、今年3月には「コウノトリ・トキ定着推進協議会」として浅野市長も含めトキの繁殖地である佐渡市を訪問し、トキの生息環境について意見交換を行ったほか、トキ関連の各施設や水田魚道の様子などを視察しました。これらの意見交換、視察は今後の小山市におけるトキの生息環境里地づくりへの大きな参考となりました。

柳生博さんのお別れ会参加報告

コウノトリ見守りボランティア 代表 平田政吉

令和4年7月30日、31日の二日間、俳優で日本野鳥の会元会長である柳生博さんのお別れ会が山梨県北杜市大泉町の八ヶ岳倶楽部にて行われました。今回は市長を含め4名で参列してまいりました。

お別れの会の会場は高山らしく7月末なのに新緑で爽やかな空気でした。私の好きな白樺林、ブナの森、きれいな草花を咲かせた森の一角にステージ棟がありました。茅葺の屋根、日陰はヤマゴケでとても素敵でした。建物の中にはギャラリ、ステージ、レストラン等があり、ステージ棟の前には生前の柳生さんの若々しい写真があり倶楽部の森の枝を献花用に添えてありました。ステージ棟の周りはコテージ



のようになっていて沢山の人々ゆったりと腰掛け、飲み物を口にしながら語り合い若い世代のグループによる音楽を静かに聞いていました。私たちは献花をすませレストランで昼食を取って八ヶ岳倶楽部内の森を散策し野鳥の声、エゾゼミの音が響き渡る癒しの森を通り森林浴をしながら帰路につきました。

柳生さん有難うございました。貴方は、初めて渡良瀬遊水地に訪れた際、渡り鳥や、ほかの水鳥が飛来する環境作りには、水辺が絶対必要であると説き、しかも、コウノトリは必ず飛来すると私たちを鼓舞してくれました。貴方の思いは渡良瀬遊水地にいつまでも、いつまでも残り必ずやコウノトリの舞う素敵な癒しの場になるでしょう。



合掌



渡良瀬子ども自然塾の活動

ラムサール湿地ネットわたらせ 門馬悠一

浅野正富市長が事務局長を務める「ラムサール湿地ネットわたらせ」では、渡良瀬子ども自然塾を毎年10月から翌年5月にかけて実施しています。渡良瀬遊水地とその周辺地域の自然や風土、伝統文化に触れてもらうことにより自然を大切にする心や郷土愛をはぐくむことを目的としています。この運動を始めてから今年で早くも9年目になり、今や登録会員数は35家族、児童数は51名を数えるまでになりました。



今年は、コロナ感染症の再拡大により1月、2月は中止を余儀なくされましたが3月以降は予定のス

ケジュールを消化することができました。浅野市長には日曜・祝日に関わらず公務のある中でも、渡良瀬子ども自然塾が開かれる際には、可能な限り時間を工夫して自然観察など子供たちへの対応をしていただきました。

保護者からの声

私自身、アスファルトのみの地で育ち、小山市の市街地に移住しました。渡良瀬子ども自然塾と出会うまでは、小山市はこんなにも自然と歴史のある「まち」だとは知りませんでした。子どもたちは、生き物博士・植物博士リーダーたちに色々教えていただき、自然に親しみながら成長することができ、親子共々、毎回の開催を楽しみにしております。

萩原法子

思いをひとつに出発「全国菜の花サミットin小山」を終えて

2021年12月11日、12日開催 NPO民間稲作研究所 理事 富居登美子

「持続可能な田園環境都市を目指して」のテーマで、コロナ禍により延期されていた第20回菜の花サミットは運良く実参加での開催となりました。

今回で長く続けていた全国菜の花サミットは区切りをつけ、深い意味合いのある20回大会に小山市を選択していただいたことに感謝致します。

同時に2016年小山市、2018年いすみ市で開催された「生物多様性を育む農業国際会議」の総括と今後の展望を作り出す場でもありました。

基調講演「地球の健康と生物多様性」で古沢広祐さん(環境・持続社会研究センター代表理事)はコロナ禍で人の行動形態は一変しましたが、野生動物・家畜・人間の健康はお互い連鎖しているという視点と環境調和型の社会の組み立て直しの考え方が重要であると提案しています。

300人が二日間に渡って全国菜の花サミット20年の歩みと展望、生物多様性を育む農業国際会議の意見交換と、5つの分科会で活発に発表と論議が繰り広げられました。

それぞれが小山市のみならず地球再生と人と自然環境の未来をつくる大事な提言でした。先進事例に学びながら、ひとつひとつを形にして、自然豊かな街づくりに参加者一人ひとりが決意をしたことと思います。当民間稲作研究所の前理事長稲葉光圀はサミットを主催すべき一人でしたが、開催日の一年前にあまりにも早く一人旅立ってしまいました。田植え後、除草をしないで抑草する稲葉農法を考え実践し、日・中・韓の有機稲作の国際会議をスタートさせ、晩年までブータン国へ有機稲作の指導に行っていました。学校給食を進めているいすみ市を始め、小山市の有機稲作行稲作りを応援してきました。

生物多様性を育む国際会議は2023年は佐渡、2025年は徳島で開催することが決まりました。

最終日の午後、「田んぼの生物・文化多様性2030プロジェクト」キックオフ集会在持たれ、10年前の2020プロジェクトのスタートも小山市でおこわ行われたのは小山市の生物多様性に対する意識の高さの表れです。サミット後、それぞれの市町で分科会の内容が実践に移されている事は、サミット開催の意義を地域に広げることができたと思っています。



宣言文を読み上げる浅野市長

5分科会

- ① 持続可能な地域・まちづくり
- ② 「菜の花プロジェクト」のこれから
- ③ 体にやさしい農と食
～学校給食を通して子どもたちに元気を～
- ④ 行政と市民の協同
- ⑤ コウノトリやトキがつかなく田園・自然、人、そして未来。

小山っ子の未来を守る会活動と浅野市政での取り組み

小山っ子の未来を守る会 川村葉子・石川 均

小山っ子の未来を守る会は、2020年10月18日に発足した市民団体です。有機食材による学校給食の実現と市所有地・管理地(施設)における除草剤の使用を止めることを目標とし、16名でスタートしました。会発足後まもなく、学校給食有機化と小山市所有地・管理地(施設)での除草剤使用を控える要望書の署名活動に取り組みました。短期間にも関わらず、470名を越す市民の皆さんに賛同をいただき、浅野市長に市民の声としてお届けしました。これに対し、浅野市長から関係部署で研究・検討する旨の前向きな言葉をいただきました。

2021年7月には自主上映会『タネは誰のもの』を、「一般社団法人 種子の会とちぎ」との共催で実施しました。浅野市長には開催地の市長として挨拶を頂き、国民の食生活を守り日本の農業を守っていく事の重要性や、命を守る食であることをお話いただきました。

2021年12月には、「小山市有機農業推進協議会」が設立されました。委員の一人に本会理事が委嘱され、また、小山市の有機農業推進と学校給食有機化への市の取り組みが示されました。

直後の「第20回菜の花サミットin小山」は、これまでの小山市の有機農業を振り返りながら今後の取り組みについての方向性を全国に打ち出す機会となりました。小山っ子の未来を守る会からもメンバーが、分科会の一つ「体にやさしい農業と食～学校給食を通して子どもたちに元気を～」の進行役を担うと共に、身体に優しい昼食の提供に向けた取りまとめと販売・お土産として体

に良い焼き菓子等の販売、会PR展示と各部門で活動させていただき、大変貴重な経験となりました。

また、サミット終了後に開かれた「田んぼの生物・文化多様性2030プロジェクトキックオフ集会」では、小山市役所農政課係長の須藤啓明氏が「小山市は学校給食の有機化・有機農業を推進します!」と宣言され、私たちが目指す目的におおきな一歩となる心強い言葉に驚き、興奮しました。

2022年4月、本会の2021年度総会後には、浅野市長と関係部署の職員の皆さんをお迎えして市政報告会と意見交換会を開催しました。この中で浅野市長は、国が掲げた「みどりの食料システム戦略」を踏まえ、新たな有機農業を目指す必要性と持続可能な観点から、田園環境都市や循環型社会を目指した市民との意見交換や政策提案につながる会話の深化を望む姿勢を示されました。私たちも、市長はじめ関係部署の職員の皆さんと意見交換でき、大変有意義な会となりました。

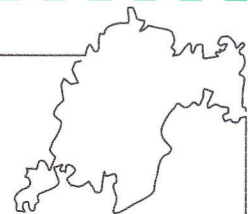
要望した有機食材による学校給食の実現には有機での生産拡大が大きな課題です。そのためには、市民が望み、有機食材の生産者が増え、小山市職員のみなさん、関係者のみなさんの協力がなければ実現しません。

今年度8月から、私たちは小山市有機農業推進協議会と共催で毎月1回「オーガニック講座」を開催しています。市民のみなさんが食の大切さを学ぶ機会をつくりたいと思い、今年度の活動の一つの柱として協議会事務局のみなさまと共に取り組んでいます。このような形で開催できることになったのも、浅野市長と市職員のみなさまのアドバイスやお力添えがあつてのことです。

本会の取り組みが浅野市長との出会いによって進められていることに感謝しつつ、より良い地域づくりを市民の皆さんと共に進めていければと願っています。

市民が創る田園環境都市小山の会の活動とこれから

共同執筆 菊池浩文、本橋芳男、黒川泰延、松本律子、金子美奈子、門馬悠一



私たち、市民が創る田園環境都市 小山の会では、この一年間、浅野市長が述べる小山市の『大切なもの』の再発見に努め、それらから『学びなおす』ことに力を注いできました。元日の初日の出探鳥会に浅野市長と共に参加し、渡良瀬遊水地の環境保全と懸命な利用について学びました。2月には、一部鎌倉道と呼ばれる古道を含む小山歴史の道を市立博物館まで歩き、その間の歴史遺産を訪ね歩きました。4月には、おーバスを利用した中久喜地区の史跡探訪を行い、小川悟郎中久喜自治会長の案内で中久喜城跡をはじめ和談坂、神明宮、持福院、西光寺、松岸寺などを散策しました。これらの活動を通して小山市の貴重な歴史遺産を改めて知り、今後も市内の他の地域で同様の取り組みを続け、多くの人にも広く紹介することにより郷土愛を育み大切な遺産を将来に引き継ぐ契機とすることを考えています。

一方、他の団体との連携にも積極的に取り組みました。学校給食食材の有機化や公園での除草剤散布の中止を訴える「小山っ子の未来を守る会」と共に、自然に寄り添い持続可能な食糧生産を目指す黒川いちご園が民間稲作



実証実験圃場での稲刈り風景

研究所の館野理事長の指導の下に始めた有機稲作の田植えと稲刈りに参加をしました。また、「ラムサール湿地ネットワーク」による渡良瀬子ども自然塾へも積極的に参加し子どもたちへの自然環境学習や様々な遊水地での遊びにサポートさせていただきました。

10月には、市民家族の希望者を募って思川で川あそびと芋煮会を催しました。参加した子供たちには多くの種類の川魚を見せることができ、思川の自然の豊かさを実感してもらいました。

当会は発足メンバー8名からスタートしましたが、わずか1年余の活動で今や会員数は30名に達しました。新たなこれら有能多彩なメンバーの力を結集し、未だ隠れている小山の小さな自慢を発掘し、風土、伝統、文化の再発見とそれらを田園環境都市 小山の未来に繋ぐ堅実なまちづくり活動をしてまいります。

黒川いちご園、 黒川泰延さんの有機稲作への思い

国民を二度と飢えさせないための根拠法であった種子法が廃止され、農薬や除草剤による人々の健康や生態系への影響が指摘され、さらに化学肥料の高騰や輸入の停滞が懸念される状況において、有機稲作こそが持続可能な農業だと思ふようになりました。

そこで今年からポット成苗育苗などによる除草作業の必要のない抑草栽培に取り組み、結果的にうまくいったところもあれば、そうでないところも少なくありませんでした。

来年は十分な育苗期間を確保することで田植え後のスタートダッシュによって雑草を寄せ付けない抑草技術の修得に努め、有機稲作の裾野を少しでも広げられればと思っています。

YouTubeに観る 浅野市政のこれまでとこれから

市民が創る田園環境都市 小山の会 黒川 泰延

小山市長選ではYouTubeの「あさの正富チャンネル」をお手伝いし、そのなかで特に印象に残っている動画は『【最終演説】小山はこれを愛する市民のためのものだ! 現職市長の私物ではない!』(下記動画①参照)です。普段の穏やかな表情とは一転した鬼気迫る演説は生涯忘れられそうにありません。また、当選後のご動向については「小山市公式 - Oyama City Official -」チャンネルにて、定例記者会見の様などさまざまな動画をご覧いただけます。その中でも『第20回全国菜の花サミット in 小山 ①開会セレモニー』(動画②参照)では、持続可能な田園環境都市小山のまちづくりの実現へ向けた決意を全国へ向けて披露されていたりしました。それから、市民団体「小山っ子の未来

を守る会」の総会後に行われた『浅野正富市長市政報告(2021/4/25)』(動画③参照)では、学校給食の有機化を望むお母さん方と向き合いながら、市のこれまでの取り組みと課題や今後の展開について丁寧にご説明くださいました。市民を主役に掲げてこれに全力で応える浅野市政、これからますます目が離せなくなりそうです。



▶動画①



▶動画②



▶動画③

地域自治会長の

ことば

羽川自治会会長 坂本克志

欧米の物質文化に憧れ、故郷を離れ人社会の未来を信じ、都市指向で生きて来た私達団塊世代は人生の終末期を迎えた今、大きな試練に立たされている。日本社会の閉塞感の蔓延、経済の低迷は沈没前の危機的状況であると言っても過言ではない。

私は数年前長年世話になっていた地域社会に少しでも役立てればという消極的動機で自治会活動に足を踏み入れた。

自治会活動は袴を着ない普段着の活動であり、企業などのタテ社会では見えない人々の生の生活に必然的に触れさせられる。そこで私は多くのことを学んだ。とりわけ真の生活者の多種多様な過去と今を引きずりながら、未来指向で生きている人達の逞しい姿に人間としての有り様を覚醒させられた。

しかし、その活動の中で大きな壁にぶつかる。市政の頂点にあまりにも古い価値観で20年も君臨し続けてきた人物がいたからだ。さらに6期目市長在任24年を目指そうとしていることに、身を投げうってでも戦うことを決意する。そして、市民の良識と皆様方の支援によって勝利し、浅野市政がスタートする。

しかし、勝利したと言っても、その得票は小山市の全有権者の30%にも満たない。生活に追われ、社会を顧みず時間の余裕のない人達、政治に無関心な生活状況に追いやられてしまった人達が多数存在することを強く認識して欲しい。各種選挙の投票率が50%を切り、それに何の異議も唱えない、最早社会は民主主義ではないと言っても過言ではない。この人達に政治に関心を持ってもらい投票行動を促すのが私達「後援会活動」の大きな柱だと思う。私たちが自己満足的、高慢な「理念主義」や自己利害優先の低俗な「現実主義」に陥ることなく、現状維持的傾向に流れがちな地域社会に積極的に切り込まなくてはならない。文字通り草の根民主主義の実践が問われている。

私自身の過去の総括とこの5年近くの自治会活動の経験から、可能であると確信している。また、それが日本の政治、経済を救う唯一最善の方法であると思う。私達の求めた「青い鳥」はここにいるのだ、古い衣を脱ぎ捨て、共に生き、共に戦い抜こう！

年会費納入・個人献金のお願い

あさの正富後援会の会員の皆様には、日頃よりご支援ご協力を頂きありがとうございます。2023年分の年会費1,000円を2023年1月から3月末までの間に下記口座にお振込み頂きますようお願い申し上げます。

また、あさの正富後援会では、あさの正富の政治活動を支えるために個人献金を募っております。献金頂ける方は、年会費納入と同様に下記口座にお振込み下さい。献金は随時受け付けております。

足利銀行 間々田支店 普通預金口座
口座番号：5503382
口座名義：あさの正富後援会 代表 浅野正富
(アサノマサトミコウエンカイ ダイヒョウ アサノマサトミ)

※振込み手数料はご負担願います。

匿名の献金を受け取ることが出来ませんので、献金お振込みの際は事前に住所・氏名・電話番号を、あさの正富後援会事務所まで(TEL・FAX・メールのいずれか)ご連絡をお願い申し上げます。

なお、政治資金規正法により、個人献金は、1人年間150万円以内と定められています。また、年間の個人献金が1人5万円を超えると、政治報告書に個人情報(住所・氏名等)が記載されますのであらかじめご了承ください。

入力例：A0123 オヤマ タロウ

お振込み頂く際は、ご依頼人のお名前の前に、封筒の宛名ラベルに記載されている英数字を必ずご入力ください。

編集後記

後援会だよりを会員の皆さまとの情報交換のツールとして編集・活用していくため、浅野市政の進め方と共に会員皆様のご意見などお寄せ頂き今後さらに内容の充実をはかしていきたいと思っております。(楠)

読み易さを念頭に置いたものの、支援者の方々の活動やご意見を出来るだけ掲載したいと欲張り、結局紙面が窮屈となってしまいましたが、市民の活動や意見に目と耳を傾ける浅野市政の姿が伝わったかと思っております。(門馬)

市政報告・意見交換会の開催について

新型コロナウイルス感染症の波が次々と押し寄せ、当初計画した市政報告会、及び、意見交換会の開催が大幅に遅れ、今年度ようやく一部の開催が実施できました。さらなる市民との対話を通じて市民が求める政策を進めていくため、会員の皆さまに、浅野市長との意見交換会や対話集会などの開催希望がありましたら是非、後援会事務所に連絡を頂ければ、それに対応しますので、皆様方のご協力をよろしくお願い致します。

あさの正富後援会事務所 <https://www.asano-masatomi-supporters.com/>

〒323-0034 栃木県小山市神鳥谷1-6-19 TEL.0285-25-6577 FAX.0285-25-6627 メールアドレス：masatomi2020@gmail.com